

Chauffe-biberon は述語名詞かそれとも項名詞か？

高 田 晴 夫

はじめに

本稿¹では、以下の1)に用いられている chauffe-biberon (哺乳瓶温め器)の
ように、通常具体的な意味を表すが、「faire DU ~」構文² (faire は日本語の
“する”, DU は部分冠詞で日本語に対応するものがない)の中に入るとたちまち
活動を表す名詞をとりあげ、それらが述語名詞³なのかそれとも項名詞⁴なのか
を、語彙・文法理論⁵の枠組みの中で論ずる。

1) J'ai l'impression d'avoir passé les 3 mois qui ont suivi la
naissance de Jules à ne rien faire que du chauffe-biberon.

(Danielle CORBIN : 1994)

¹ 本稿は2009年9月3日、筑波大学パリ第13大学・共同セミナー「フランス語の文法と語彙のダイナミクス」で行った講演内容(フランス語)に基づいている。

² スポーツ活動, 芸術的活動, 知的活動, 職人的活動を表す構文(ネリー・フロ, ダニエル・ヴァンデヴェルデ N. FLAUX et D. VAN DE VELDE (2000 : 103-104)。ジャクリース・ジリ・シュネデール Jacqueline GIRY- SCHNEIDER (1987 : 159)

³ 述語名詞の述語とは「代数的表示法によれば、文は、その主語や補語などと一緒に関節的な項関式を構成する演算子である: 述語(項1, 項2, 項3)」(ガストン・グロス Gaston GROSS (1996c : 155))。このように定義される述語は、動詞(ex. désirer <欲する>)として実現する場合もあれば、形容詞(ex. désiratif <欲する>)や名詞(ex. désir <欲求>)として実現する場合もある。述語名詞とは、名詞として実現した述語のことである。ここから名詞の述語と呼ばれることもある。

⁴ 文が伝える事象に参加する〈人〉や〈もの〉など具体的事物を意味する名詞。

⁵ モーリス・グロス Maurice Gross が『統辞論の方法』(1975)において確立し、パリ第13大学のLLI (Laboratoire Linguistique Informatique 研究所)やLDI (Lexiques, Dictionnaires, Informatique 研究所), マルヌラヴァレ大学のIGM (Institut Gaspard Monge 研究所)において継承されている言語理論で、Z. ハリスの言語学に淵源がある。

訳：私には、ジュールが生まれてから3年というもの哺乳瓶温めしかしなかったという思いがある。

この文において、chauffe-biberon はあきらかに具象名詞ではなく、活動を表す抽象名詞である。後に見るように、このような名詞には、これ以外にも cheval <馬>, piano <ピアノ>, crochet <鉤針>, chaise longue <折りたたみ長椅子>がある。本稿ではこのような語を取り扱う。これらは、本来は具体名詞であるにもかかわらず、上記の構文「faire DU ~」の中に表れると、すべて活動名詞に変化する。語彙・文法理論の枠組みでは、これらは、述語名詞なのか項名詞なのかという重要な問題を提起するのである。

1. 語彙・文法理論における述語名詞と項名詞

語彙・文法理論では、語彙的単位は、それが文の中で果たす次の3つの機能に従って分類できる。

- (1) 述語 (prédicat) 機能
- (2) 項 (argument) 機能
- (3) 現働化 (actualisation) 機能

たとえば、次の文を見てみよう。

2) Max admire cette cathédrale. <マックスはあの大聖堂に見とれる。>

この文の中には述語機能を果たしている admire, 項機能を果たしている Max と cathédrale, 現働化機能を果たしている cette がある。ここでは述語は動詞として実現しているが、次の3), 4)の文では、意味内容はほぼ同じであるのに、それぞれ形容詞、名詞として実現している。

3) Max est admiratif pour cette cathédrale. <マックスはあの大聖堂に見とれる。>

4) Max est en admiration devant cette cathédrale. <マックスはあの大聖堂に見とれる。>

3)の文で述語機能を担っているのは形容詞の admiratif で、4)の文では名詞の admiration が述語機能を担っている。語彙・文法理論では述語は動詞や形容詞

として実現するだけでなく名詞としても実現できる。述語として機能する名詞を述語名詞と呼ぶ。述語名詞は、大抵、admirationのように動詞から派生した派生語であるが、対応する動詞がない場合でも述語名詞を認める必要があるとする仮説を提唱している学者⁶もいて、ここでも、そのような仮説を支持する立場から、本稿を展開する。

他方、名詞にはもっぱら述語が要求する項として働く名詞がある。これを項名詞と呼ぶ。項名詞は、上でみた述語名詞と異なり、他の名詞を項として要求しない⁷。たとえば、2), 3), 4)のMaxやcathédraleは項名詞である。項名詞は、大抵の場合数えられる具象名詞である。文脈を離れて述語名詞と項名詞の線引きが難しい場合がある。たとえば、次の5)の文におけるdécouverteは述語名詞であるが、6)の文におけるdécouverteは項名詞である⁸。

5) Max fait une découverte d'une nouvelle comète. 〈マックスは新しい彗星を発見する。〉

6) Max publie une découverte. 〈マックスは発見したものを公表する。〉

2. 支持動詞と述語名詞

語彙・文法理論では、支持動詞の研究が盛んである。支持動詞とは、「項がない動詞で、その動きは述語名詞に時制、人称、数についての情報をもたらす働きを持つ動詞である。述語名詞をいわば活用する動詞である。」⁹たとえば、すでにあげた4)の文のestや5)の文のfaitは支持動詞である。また次の7)のfaisも支持動詞である。

7) Tu fais la description de la ville. 〈君は町を描写する。〉¹⁰

述語名詞は、動詞から派生された名詞に多いが、常にそうである訳でない。

⁶ ジャクリヌ・ジリ・シュネデル Jacqueline GIRY-SCHNEIDER(1987)

⁷ 稀に être l'ami de ~ 〈~の友達である〉のように項を要求する名詞としても機能する名詞もある。

⁸ サラ・メジュリ Sarah MEJRI (2009)参照。

⁹ ガストン・グロス Gaston GROSS (1996c : 155)

¹⁰ 同上 (1996c : 156)

たとえば、J.ジリ・シュネデールは動詞から派生された述語名詞についての研究¹¹を行った後、動詞と形態論的關係のない述語名詞についての浩瀚な本¹²を上梓している。その研究から本稿との関連で興味深い例をひとつあげる。氏は次の8)における *fait du plat* は「支持動詞 (+部分冠詞)+述語名詞」と分析できるとしている。

8) *Ce journaliste fait du plat au ministre.*¹³ 〈このジャーナリストは大臣にへつらう。〉 (cf. *plat*は本来〈皿〉を意味する)

この文において、*fait du plat* は「述語動詞 (+部分冠詞)+項名詞」と分析することもできなくはない。しかし、氏はそのような分析をしない。それでは、「支持動詞 (+部分冠詞)+述語名詞」や「述語動詞 (+部分冠詞)+項名詞」のような分析はどのような基準で行われるのか？

3. 述語名詞と項名詞の判別の基準

述語名詞と項名詞の判別は、まず文に關係詞化変形を適用し、次に關係詞の *de* による置き換え変形と動詞要素の削除変形を同時に適用し、その結果得られる要素連続が、元の文における要素間の意味關係を損なうことなく保持しているか否かによって行われる¹⁴。保持している場合は、その動詞要素は支持動詞の可能性があり、保持していない場合は、述語動詞である可能性がある¹⁵。たとえば、8)の文は、9)のように変形できる。

9) *Le plat que ce journaliste fait*¹⁶ 〈このジャーナリストが大臣にするへつらい〉

次に9)は10)のように変形しても元の文における要素間の意味關係は損なわ

¹¹ J. ジリ・シュネデール (1978)

¹² J. ジリ・シュネデール (1986)

¹³ J. ジリ・シュネデール (1986 : 128)

¹⁴ J. ジリ・シュネデール (1986 : 33, 168)

¹⁵ G.グロス (1996a : 55) は同じことを次のように述べている。「Le verbe support peut être effacé dans une phrase sans que celle-ci perde son statut de phrase. 〈支持動詞は文の中でその文の資格を失うことなく削除できる。〉」

¹⁶ J. ジリ・シュネデール (1986 : 128)

れることなく保持されている。

10) Le plat de ce journaliste au ministre¹⁷ 〈このジャーナリストの大臣に対するへつらい〉

このような名詞句は次の11)のような文の主語の位置に現れる。

11) Le plat de ce journaliste au ministre est risible¹⁸ 〈このジャーナリストの大臣に対するへつらいは滑稽である。〉

以上の事実は、8)の文の fait は支持動詞であり、plat は述語名詞であることを示している。

4. アンケートの構成

本稿では通常は具体的な意味を表わす名詞の中に、3.の faire du plat〈へつらう〉のように、「支持動詞¹⁹ (+部分冠詞) + 述語名詞」と分析できる名詞があるかどうかを知るために、アンケート調査²⁰を行った。faire du chauffe-biberon〈哺乳瓶温め〉を例にとり調査の仕方を以下に説明する。まず、次のような二つの文をインフォーマントに見せる。

Luc fait du chauffe-biberon pour son bébé. 〈リュックは彼の赤ん坊のために哺乳瓶温めをする。〉

↓

Le chauffe-biberon de Luc pour son bébé a éveillé son amour paternel. 〈赤ん坊のためのリュックの chauffe-biberon²¹ は、父性愛を目覚めさせる。²²〉

二番目の文の下線部は、3で説明した変形（関係詞化変形、関係詞の de による置き換え変形、動詞要素の削除変形）を一番目の文に適用した結果である。

¹⁷ J. ジリ・シュネデール (1986: 128)

¹⁸ 同上 (1986: 128)

¹⁹ 英語学などで軽動詞 (light verb) と呼ばれるものに相当する。

²⁰ 実際に使った調査表は、本稿の最後に収録してある。

²¹ 注28を参照。

²² もちろん、元の調査表では日本語訳はついていない。

アンケートの質問は、上の一番目の文から二番目の文への変形についてどう思うかを以下の5つの選択肢から選ばせるものである。

- (1) 全く容認できる。意味的变化を伴わない。²³
- (2) 全く容認できる。意味的变化を伴う。²⁴ (それはどのような変化ですか²⁵)
- (3) 少し容認できる。
- (4) 可能である。
- (5) 容認できない。

5. アンケート結果

アンケートは2009年8月末に行われた。インフォーマントは、20代の新潟大学人文学部の交換留学生7人²⁶と、50代の著者の友人のCNRS研究員のフランス人1人²⁷の計8人である。

5.1. cheval 〈馬；乗馬〉

chevalに対するアンケートは以下の変形に関するものである。

Luc fait du cheval au Bois de Boulogne. 〈リュックはブローニュの森で乗馬をする。〉

↓

Le cheval de Luc au Bois de Boulogne a rendu sa femme un peu irritée. 〈ブローニュの森のリュックのcheval²⁸は彼の妻を少し怒らせた。〉

²³ この選択肢と次の(2)のような選択肢を設けたのは、「全く容認できる。」という回答には、意味的变化を伴う場合と伴わない場合があることが予備調査で分かっていたからである。

²⁴ 注15参照。

²⁵ このような質問を追加したのは、インフォーマントの中には、アンケートの主旨を取り違えて、変形後の文（矢印の先の文）が文法的な文でありさえすれば「全く容認できる。」と誤解するケースがあることが予備調査で分かっていたからである。

²⁶ Benjamin RAVON 氏, Grégory BEAUSSART 氏, Yann POTTIER 氏, Romain MARIE 氏, Kévin BONNIN 氏, Alicia GAUTHIER 氏, Anaïs CORNIER 氏, Cécile BRUN 氏

²⁷ Pierre HALLE 氏

²⁸ cheval が〈乗馬〉なのか〈馬〉のか判別できないことを示すために訳語を与えず cheval のままにしておいた。以下の調査対象になった語の訳はすべて同様に扱った。

調査結果は以下の通りである。8人中6人が(5)の〈容認できない〉と答え、2人が(2)の〈全く容認可能である。意味変化を伴う。〉と答えていることが分かる。

選択肢の種類	回答数
(1)	0
(2)	2
(3)	0
(4)	0
(5)	6

「それはどのような変化ですか」という質問に対する回答は、2人とも、変形操作により *cheval* のもっていた〈馬術〉という活動的意味から〈馬〉という具体的意味に変化するというものであった。つまり変形操作の前の活動的意味は、変形操作後保持されないのである。したがって *faire du cheval* は「支持動詞 (+DU) + 述語名詞」と分析されるべきものではなく、「述語動詞 (+DU) + 項名詞」と分析されるべきものである。すなわち、*faire du cheval* の *cheval* は述語名詞ではなく項名詞であると見なさなければならない。

5.2. piano 〈ピアノ；ピアノ練習〉

piano に対するアンケートは以下の変形に関するものである。

Luc fait du piano avec beaucoup de zèle. 〈リュックは熱心にピアノを習っている。〉

↓

Le piano de Luc avec beaucoup de zèle a rendu les voisins en colère.

〈リュックが熱心に習っているpianoは隣人を怒らせた。〉

調査結果は以下の通りである。8人中7人が(5)の〈容認できない〉と答え、1人がこれとは全く逆に(3)の〈少し容認できる〉と答えていることが分かる。

選択肢の種類	回答数
(1)	0
(2)	0
(3)	1
(4)	0
(5)	7

これはどのように評価すべきであろうか？ faire du piano は faire du cheval の場合と同様に「述語動詞（+DU）+項名詞」と分析されるべきであろう。すなわち、faire du piano の piano は述語名詞ではなく項名詞と考えるのが妥当である。

5.3. crochet 〈編み針；編み物〉

crochet に対するアンケートは以下の変形に関するものである。

Marie fait du crochet sur le fauteuil. 〈マリーは肘掛け椅子に座って編み物をしている。〉

↓

Le crochet de Marie sur le fauteuil occupe toute sa vie depuis 5 ans. 〈マリーが肘掛け椅子に座ってしている crochet は5年前から彼女の生活のすべてを占めている。〉

調査結果は以下の通りである。8人中2人が(2)の〈全く容認できる。意味変化を伴う。〉, 1人が(3)の〈少し容認できる。〉, 2人が(4)の〈可能である。〉, 2人が(5)の〈全く容認できない。〉と答えていることが分かる。

選択肢の種類	回答数
(1)	2
(2)	0
(3)	1
(4)	3
(5)	2

これはどのように評価すべきであろうか? (5)の〈全く容認できない。〉が2人で、それ以外の回答は6人にも達している。この6人の回答は、すべて、crochet に関する上記の変形が多少なりとも可能であることを示唆していると考えられる。したがって faire du crochet は、faire du cheval や faire du piano の場合と異なり、「支持動詞 (+DU) + 述語名詞」と分析されるべきであろう。すなわち、faire du crochet の crochet は項名詞ではなく述語名詞と考えるのが妥当である。

5.4. chaise longue 〈寝椅子；寝椅子でくつろぐ〉

chaise longue に対するアンケートは以下の変形に関するものである。

Luc fait de la chaise longue en plein air chaque jour. 〈リュックは毎日戸外に出て寝椅子でくつろぐ。〉

↓

La chaise longue de Luc en plein air chaque jour le guérira de sa maladie peu à peu. 〈リュックは毎日の戸外での chaise longue のおかげで彼の病気は少しずつ良くなるだろう。〉

調査結果は以下の通りである。8人中3人が(4)の〈可能である。〉、5人が(5)の〈全く容認できない。〉と答えていることが分かる。

選択肢の種類	回答数
(1)	0
(2)	0
(3)	0
(4)	3
(5)	5

これはどのように評価すべきであろうか？(5)の〈全く容認できない。〉が5人にも達している一方で、〈可能である〉が3人にも達している。しかしながら、(1)や(2)が全くいなかったことを考えると、faire de la chaise longue は、faire du cheval や faire du pianoと同様、また、faire du crochetとは異なり、「述語動詞(+DU)+項名詞」と分析されるべきであろう。すなわち、faire de la chaise longue の chaise longue は述語名詞ではなく項名詞と考えるのが妥当である。

5.5. chauffe-biberon 〈哺乳瓶温め器；哺乳瓶温め〉

chauffe-biberon に対するアンケートは以下の変形に関するものである。

Luc fait du chauffe-biberon pour son bébé. 〈リュックは彼の赤ん坊のために哺乳瓶温めをする。〉

↓

Le chauffe-biberon de Luc pour son bébé a éveillé son amour paternel.

〈リュックの、彼の赤ん坊のための chauffe-biberon は、父性愛を目覚めさせる。〉

調査結果は以下の通りである。8人中2人が(1)の〈全く容認できる。意味変化を伴わない。〉、1人が(2)の〈全く容認できる。意味変化を伴う。〉、5人が(5)の〈全く容認できない。〉と答えていることが分かる。(2)の回答者は〈哺乳瓶温め〉から〈哺乳瓶温め器〉への意味の変化があると述べている。

選択肢の種類	回答数
(1)	2
(2)	1
(3)	0
(4)	0
(5)	5

これはどのように評価すべきであろうか？(1)よりも(5)の回答者数が多いことは、faire du chauffe-biberon が「述語動詞 (+DU) + 項名詞」と分析すべきであることを示唆している。したがって、chauffe-biberon は項名詞と考えるのが妥当である。

おわりに

本稿では、通常具体的な意味を表しながらも、「faire DU ～」構文の中に入ると、たちまち活動を表す抽象名詞になる5つの名詞 cheval, piano, crochet, chaise longue, chauffe-biberon をとりあげ、これらが述語名詞なのかそれとも項名詞なのかについて、語彙・文法理論の枠組みの中で論じた。アンケートの結果は以下の通りである。

	項名詞	述語名詞
cheval	○	
piano	○	
crochet		○
chaise longue	○	
chauffe-biberon	○	

筆者は faire du chauffe-biberon は「述語動詞 (+DU) + 項名詞」と分析する立場に立つ²⁹。しかし(1)の〈全く容認できる。意味変化を伴わない。〉と回答した者が2人いた点はどのように説明できるだろうか。これは chauffe-biberon の中に〈行為〉の意味が含意されていると感じとったからではないだろうか。実際のところ、フランス語の chauffe-biberon タイプの合成語の中には、僅かであるが〈行為〉を表すものがある³⁰。おそらく、そのような合成語との連想が働いて、(1)のような回答をしたのではないだろうか。しかし、ほとんどのインフォーマントは faire du chauffe-biberon の chauffe-biberon は具体物を指すと感じているので項名詞とするのが妥当である。今回の調査で意外であったのは chauffe-biberon が項名詞と判断され、crochet が述語名詞と判断されたことであった。当初は chauffe-biberon が述語名詞で、crochet はむしろ項名詞と判断されるのではないかと予想していた。何故ならば、chauffe-biberon は動詞を構成要素として含む合成語であり、それ故、行為的な意味を表す名詞である可能性があると考えたからである。今回のアンケート調査結果は、あくまでも限定された数のインフォーマントから得たものである。以上の調査結果に対する評価の妥当性は、今後の更なる調査研究に委ねたい。

²⁹ この問題に関してG.グロス(2009)は次のように述べ、別の見方ができることを示唆している。

「faire du chauffe-biberon は、文体的な意味を表す諧謔的な表現である。なぜなら、chauffe-biberon は、通常、〈行為〉を意味しないからだ。行為を意味するように見えるのは、単に faire du cheval や faire du piano といった表現との類推による。faire du chauffe-biberon は faire du cheval や faire du piano といった表現と同列に扱うべきではない。」

これは faire du chauffe-biberon を「述語動詞 (+DU) + 項名詞」と分析する立場や「支持動詞 (+DU) + 述語名詞」と分析する立場とは全く異なる、もう一つの立場があることを意味する。それは成句的表現あるいは慣用的表現とみなす立場である。しかし、筆者はこのような立場には立たない。

³⁰ よく引用されるものは、lèche-vitrine 〈ウインドー・ショッピング〉、rase-mottes 〈低空飛行〉である。

Bibliographie

- D.CORBIN (1992)「Hypothèses sur les frontières de la composition nominale」, Cahier de Grammaire No17, pp.26-55
- N. FLAUX et D. VAN DE VELDE(2000)『Les noms français』, Ophrys
- J. GIRY-SCHNEIDER (1978)『Les nominalisations en français』, Librairie Droz.
- J. GIRY-SCHNEIDER (1987)『Les prédicats nominaux en français』, Librairie Droz.
- G. GROSS (1996a)「Prédicats nominaux et compatibilité aspectuelle」, Langages 121, pp.54-72
- G. GROSS (1996b)「Pour une typologie des prédicats nominaux」, Actes du colloque d' Uppsala en linguistique française, Studia Romanica Upsaliensia 56, pp.221-230
- G. GROSS (1996c)『Les expressions figées』, Ophrys
- G. GROSS (2009), communication personnelle avec Monsieur Takada
- M. GROSS (1975)『Méthode en syntaxe』, Hermann
- S. MEJRI (2009)「Traitement automatique des langues」, documents distribués lors de la communication à l'université de Tsukuba le 3 septembre 2009.
- D. VAN DE VELDE(1997)「Faire du N:un dispositif propre à faire entrer les activités dans les taxinomies」 Revue de Linguistique Romane T.61, pp.369-395

アンケート調査表

Question A

Répondez aux questions suivantes concernant la transformation suivante.

Choisissez la réponse la plus convenable.

A-1. Luc fait du cheval au Bois de Boulogne.

↓

A-2. Le cheval de Luc au Bois de Boulogne a rendu sa femme un peu irritée.

Supposons que la partie soulignée de la deuxième phrase (=A-2) soit la transformation nominale de la première phrase (=A-1).

Que pensez-vous de cette transformation?

- 1) Tout à fait acceptable. Elle n'entraîne aucun changement sémantique.
- 2) Tout à fait acceptable. Mais, elle entraîne un changement sémantique. (Si vous choisissez celle-là, lequel changement?)
- 3) un peu acceptable.
- 4) possible.
- 5) inacceptable

Question B

Répondez aux questions suivantes concernant la transformation suivante.

Choisissez la réponse la plus convenable.

B-1. Luc fait du piano avec beaucoup de zèle.

↓

B-2. Le piano de Luc avec beaucoup de zèle a rendu les voisins en colère.

Supposons que la partie soulignée de la deuxième phrase (=B-2) soit la transformation nominale de la première phrase (=B-1).

Que pensez-vous de cette transformation?

- 1) Tout à fait acceptable. Elle n'entraîne aucun changement sémantique.
- 2) Tout à fait acceptable. Mais, elle entraîne un changement sémantique. (Si vous choisissez celle-là, lequel changement?)
- 3) un peu acceptable.
- 4) possible.
- 5) inacceptable

Question C

Répondez aux questions suivantes concernant la transformation suivante.

Choisissez la réponse la plus convenable.

C-1. Marie fait du crochet sur le fauteuil.

↓

C-2. Le crochet de Marie sur le fauteuil occupe toute sa vie depuis 5 ans.

Supposons que la partie soulignée de la deuxième phrase (=C-2) soit la transformation nominale de la première phrase (=C-1).

Que pensez-vous de cette transformation?

- 1) Tout à fait acceptable. Elle n'entraîne aucun changement sémantique.
- 2) Tout à fait acceptable. Mais, elle entraîne un changement sémantique. (Si vous choisissez celle-là, lequel changement?)
- 3) un peu acceptable.
- 4) possible.
- 5) inacceptable

Question D

Répondez aux questions suivantes concernant la transformation suivante.

Choisissez la réponse la plus convenable.

D-1. Luc fait de la chaise longue en plein air chaque jour.

↓

D-2. La chaise longue de Luc en plein air chaque jour le guérira de sa maladie peu à peu.

Supposons que la partie soulignée de la deuxième phrase (=D-2) soit la transformation nominale de la première phrase (=D-1).

Que pensez-vous de cette transformation?

- 1) Tout à fait acceptable. Elle n'entraîne aucun changement sémantique.
- 2) Tout à fait acceptable. Mais, elle entraîne un changement sémantique. (Si vous choisissez celle-là, lequel changement?)

- 3) un peu acceptable.
- 4) possible.
- 5) inacceptable

Question E

Répondez aux questions suivantes concernant la transformation suivante.
Choisissez la réponse la plus convenable.(1)~(5).

E-1. Luc fait du chauffe-biberon pour son bébé.

↓

E-2. Le chauffe-biberon de Luc pour son bébé a éveillé son amour paternel.

Supposons que la partie soulignée de la deuxième phrase (=E-2) soit la transformation nominale de la première phrase (=E-1).

Que pensez-vous de cette transformation?

- 1) Tout à fait acceptable. Elle n'entraîne aucun changement sémantique.
- 2) Tout à fait acceptable. Mais, elle entraîne un changement sémantique. (Si vous choisissez celle-là, lequel changement?)
- 3) un peu acceptable.
- 4) possible.
- 5) inacceptable